

今年は例年になく桜の開花が早かった。いつものことだが、福島市の桜はゆっくりと味わう間もなく気が付くと散ってしまっている。どうも慌ただしい時期には桜を愛でる余裕もなくなってしまうようである。

だが、桜が素晴らしいのは、桜前線というように、場所をかえてどんどん咲いてくれる点である。昨年の場合だと、最初に見た桜は首都圏の桜だった。娘が都会の大学に進学することになり、3月に引っ越しをした。そのときに見た桜は、それはそれはきれいだった。

まだ、あの時点では、引っ越したはいいが、すぐに福島に戻ってくるようになるとは思ってはいなかった。ただ、大学の入学式がなくなること、大学の授業がオンラインになることなどはわかっていた。それでも、希望に満ち溢れた見事な桜だったのである。

首都圏の次は、福島市の桜だった。コロナ禍により、すでに遠出はしにくくなっていた。それで、近場ということで何十年ぶりかで大森城山の桜を見に行った。人はまばらだった。ついでに、今年はチャンスとばかりに花見山にも近づいてみた。案の定、立ち入り禁止だった。それでもあきらめきれずに、花見山をわき目に奥のほうまで進んでみた。すると、大きな池があり、桜の木がたくさんあった。おもいがけずゆっくりと桜を楽しむことができた。

今年かというと、福島市の桜はほとんど眺めることはなかった。そこで、考えた。会津ならば、これからである。調べてみると、桜の名所がたくさんあることがわかった。資料を見ていると、知らない福島がたくさんあることに気付かされる。

私は、南会津に奥会津と、二度ほど単身赴任で会津に住んでいたことがある。その頃は、約一カ月間にわたって桜を楽しむことができた。信夫の里福島の桜でスタートして、会津若松の桜、猪苗代の桜、下郷の桜、南会津の桜、柳津、三島、金山の桜と、ひと月もの間、どこかしらで桜が咲いていた。金山の桜は大型連休（ゴールデンウィーク）が見頃である。

娘は3月に都会へと戻っていった。今年は7割は対面での授業を行うそうである。3月31日には、大学側の配慮により、1年遅れの入学式をやっていただいた。ライブ配信により、その様子を見ることができた。

学長さんをはじめ、数名の方があいさつをされた。そのあいさつからは、学生に対する思いが感じられた。大学の方々は、ゆったりとしており、せかせかしていない。話の内容も実に知的であった。見習うべき点が多かった。

最初は1年遅れの式でどうなのかと思っていたが、その場にはいられなくても、十分にいい入学式だと感じる事ができた。親として大学への感謝の思いが湧いてきた。娘も式に出席してよかったと感じたようだった。

昨年の桜、今年の桜、それぞれ感慨深いものがある。果たして、来年はどんな桜を見ることになるのだろうか。やはり、日本人にとっても私にとっても桜は特別な花であることは間違いない。